

プロジェクトの目的

生徒一人ひとりの主体的な学びとウェルビーイングを実現し、次世代の学校教育のモデルを創造。その成果を全国、さらには世界へ発信します。



“Kosugi Ambition” Project

～ Leading the school of NEXT with the Nearest Duty ～
(the Nearest Duty で次世代の学校を導く)

スクールモットー
the Nearest Duty
(今、この時に全力を)



なぜ、改革するのか？

一斉授業中心の均質的な学びは、我が国の成長を支えてきた。しかし、社会の変化により、一人ひとりの多様な可能性や個性を十分に伸ばしきれない時代に。



これからの学校教育に必要なこと

認知能力だけでなく、非認知能力を育み、自ら学びを選択し、他者と協働しながら課題を解決する力や、挑戦する力、自己を調整する力を育てる教育へ。



多様な力をつなぐ共創

大学・地域・企業など多様な主体がそれぞれの強みを生かし、生徒の学びを支える新たな教育の仕組みを共に創っていきます。

3. 小杉高校が目指す新たな学校像

“学びたい生徒が集い、
自分だけの学びをデザインし、
自分の未来をつくる学校”

(1) 誰が学ぶ学校か

“学びたい”と思う心を持つすべての生徒のための学校

- 好きなことをとことん学びたい生徒
- 学ぶことで自分の“得意”を伸ばしたい生徒
- 国籍にとらわれず、言語の壁を気にせず に学びたい生徒
- 周囲を気にせず に自分のペースで学びたい生徒
- 多様な科目を学び、自分の“好き”や“得意”を見つけた生徒

(2) どのような人を育てる学校か

生涯にわたって、自ら問いを持ち、学び続けられる人を育てる学校
本校で学ぶことで身につける力



4. “Kosugi Ambition” Project の方向性 (4つの柱)

自己設計型の教育課程

興味・関心に応じて科目を選択し、自分だけの学習コースを設計。選択を積み重ねて、自分らしい専門性や強みを形成します。



ミラパス (未来へのパスポート)

卒業に必要な単位を74単位とし、余白の時間「ミラパス」を創出。「わがを深める」「社会とつながる」「自分を成長させる」「夢や道路に挑戦する」など、自分の未来に向けて挑戦します。



ユニバーサル教育 (教育のユニバーサルデザイン)

国籍や発達特性、家庭環境など様々な背景を持つすべての生徒が「わかりやすく、学びやすい」授業や教育環境を目指します。多様な仲間と共に学び、互いを理解し、尊重する心を育てます。



教員の「余白」

教員が教材研究や授業改善、生徒と丁寧に向き合う時間を確保することが不可欠。業務見直しにより「余白」を生み出し、心身を整え、学び続けることで、持続可能で質の高い教育を実現します。



課題：今後検討すべきこと

- 1 「自己設計型の教育課程」を実現するために、どのような学習システムや教育課程が望ましいか。
- 2 「ミラパス」をどのように設計すれば、生徒の成長と道路形成につながるか。
- 3 多様な背景を持つ生徒も支障なく学ぶために、どのように教育のユニバーサルデザインを構築していくか。
- 4 教育の質を持続的に高めるために、教員が生徒と向き合い、教材研究や授業改善に取り組む「余白」を生み出す学校運営の在り方をどのようにするか。



課題解決のプロセス (協議体の構成)



対話と協働を重ね、よりよい解決策を生み出します。

KAPを推進する5つの原則

- 1 KAPの方向性および4つの柱を、実現すべき到達点 (KAP Compass) とする
- 2 協議にあたってはエビデンスと対話を重視する
- 3 すべての関係者から多様な意見を聴取する機会を持つ
- 4 判断にあたっては、学びの主体である生徒を中心に判断する
- 5 決定後は組織として実行する

小杉高校から、未来の学びのスタンダードを。
そして、その先の世界へ。

